

南大沢中学校区地域フォーラム 主な意見

日 時：令和6年（2024年）2月10日（日） 10：00～12：00

場 所：南大沢市民センター 体育室

参加人数：38名（応募者23名、推進会議参加者15名）

南大沢中学校区地域フォーラムでの意見について、主な意見を次のとおり整理しました。

～情報まどぐち 南大沢地域プラットフォームの構築～①

主要な意見(趣旨)
<p>◎情報基盤の検討は重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトだけではサイトへの集客が難しいので、若者が使用している他の SNS (Tik Tok, Instagram, X(旧 Twitter)) 等の活用の検討が必要。
<p>◎情報発信にはデジタルとアナログの両方の活用と、能動的な情報収集も必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイト自体がポータルサイトの位置付けなので、地域の情報を収集する。 ・住民自身が投稿出来れば様々な情報が集まりやすい。 ・ポータルサイトの運営はメンバーだけでは限界があるので、横口展開する。 ・アナログな活動に加え、LINE 上等デジタルのコミュニケーションも活用したい。 ・情報を能動的に収集する必要もある。
<p>◎ユーザーにあった情報発信は大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー目線で視覚的にわかりやすいイベントカレンダーがあると良い。 ・子育ての切り口は情報としてニーズがある。 ・主婦、学生、サラリーマンなど色々な立場の人に最適化したユーザーインターフェース（提供する情報の表示形式）にするのも面白い。 ・検索機能や、ジャンル分けするなど情報をいろんな角度で取りに行きやすくするのも良い。 ・事前に興味のあるイベントや情報についてヒアリングし、マッチした情報を発信できると個別のセグメント配信ができて良い。

～情報まどぐち 南大沢地域プラットフォームの構築～②

主要な意見(趣旨)
<p>◎情報発信の仕方は重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォームを見に行く方法や届け方は重要。逆に、情報が集まってくる仕組みも大事。 ・情報へのアクセスは人それぞれなので、ただサイトを作るだけではだめで、紙面での発信や、若者が使う SNS での発信等も必要。
<p>◎「〇〇隊」のコンテンツで出来事を発信したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営サイドの強化も必要。 ・「ロコミトランスフォーメーション」と題し、ロコミによる展開で面白いコンテンツが生まれると良い。 ・情報発信のチーム「〇〇隊」を作って運営していく。例えば、「誰かに話し隊」のコンテンツでは、地域にある自然や地域の出来事について発信していけると良い。
<p>◎発信内容は地域の魅力やイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの年間スケジュールや、花や鳥などを紹介。自然豊かなので名所ができると良い。

～地域をつなぐイベント 南大沢 Week～①

主要な意見(趣旨)
◎情報の発信方法の検討は重要。 ・シニアの方々などは、受け身でも手に入る情報がないと情報の入手は難しい。
◎参加しやすいイベントは重要。 ・イベントがあると参加しやすいが、知り合いがいないと一歩踏み出すのは難しい。 ・シニアの方は色々な活動しているが、外に出て移動することはハードルが高いので、若者やみんなが活動場所を回ると良い。 ・ナイトウォークや夜の防災イベントを実施して、夜のBBQや試食ができると良い。
◎既存のイベントにプラスαできるともっと楽しい。 ・新しいことを始めるのは難しいが、既存のものに何かちょっとプラスする。 ・何か実施しているようだが知らない、ということが減ると思う。

～地域をつなぐイベント 南大沢 Week～②

主要な意見(趣旨)
◎イベントは、継続性が重要。 ・廃品を活用したイベントなど単発的なイベントを積み重ねると、だんだんと大きなイベントになっていく。 ・イベントを継続できる仕組みが重要。 ・単発的なイベントは継続しやすい。
◎イベントどうしをつなぐことも大切。 ・イベントどうしをつなぎ、お互いに内容を知ること大切。 ・大きなイベントを1つ実施するよりも複数の小さなイベントをつなげた方が、出店者同士のネットワークを作ることできる。
◎多世代が関わることは重要。 ・高齢化で人手不足なので、世代を超えた活動ができると良い。

～地域をつなぐイベント 南大沢 Week～③

主要な意見(趣旨)
◎地域のことを知るところから始めることは重要。 ・地域にどんな活動があるのかの紹介から始めていきたい。 ・地域の防災についてももう少し知りたい。防災訓練は個々の管理組合で実施しているようだが、町全体で災害時の実際の動き方を体験できるイベントがあると良い。
◎情報発信の工夫が必要。 ・多世代に多様な手段で発信することや、情報の横連携が必要。
◎大学生やサロンとの連携は重要。 ・せっかく都立大学が立地しているから、ネットワークを作って大学生にも参加していただき、アイデアをもらえると良い。 ・たくさんあるサロンを連携し繋がりを活かす。

～憩いの場づくり 居場所マップの更新(カルテの活用)～

主要な意見(趣旨)
<p>◎安全な情報を包括的に届けることは重要。</p> <ul style="list-style-type: none">・カルテは作成から2年が経過したので更新が必要。町の中の居場所がわかるマップを一から作るのは大変なのでカルテを活用する。・八王子市など公共のサイトは階層が多くて居場所を見つけるまで大変。そもそも八王子市のHPに行かない。・自分たちで安全な情報を入手するのが難しい。子どもに関する情報は学校を通じて得られると良い。・学校で配布されるタブレットの中に、子どもだけで行ってもいい場所がわかる情報があると良い。・学校では民間のチラシを配布出来ないことがある。平等に情報を届けたいので、行政のバックアップのもと学校で配布できると良い。・行政だけではなく、子育て、小学校、中高生の関わりも実は案外縦割り。教育委員会を中心に横串をさして連携を図れるよう促してほしい。・子どもから高齢者まで誰もが行きやすい居場所を見やすく提供したい。
<p>◎居場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none">・長期休みや小学校始業前(～8時)の居場所の確保が課題。・小中高と年齢を重ねても利用できる場所があると良い。

～憩いの場づくり 公共的な場所の活用に向けた意見交換の場づくり～

主要な意見(趣旨)
<p>◎子どもたちが縛りなく自由に遊べる場所が必要。</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもたちが遊ぶ場所は無料の場所が良い。・ひねもす亭や中郷公園をもう少し活用できると良い。・児童館と青年館を足したような子どもの居場所となる施設があると良い。
<p>◎活用ルールの検討が必要</p> <ul style="list-style-type: none">・ルールやテーマを決めて公共的な場所を活用できると良い。
<p>◎子どもの安全の見守り体制は重要。</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢者が中心となり、地域で子どもの安全を見守る体制ができると良い。・ただ場所があるというだけでなく、学校や地域とのつながりがあると良い。・当番制は大変なので、ゆるやかな見守り体制が大事。・挨拶をかわせる関係性が構築できるような、自然発生的な見守りが理想。